

科目名称：	現代社会と法	
担当者名：	中村 裕行	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>私たちが生きている「現代社会」は、法治社会といわれるように「法」で治められています。その全てを把握することはできませんが、憲法をはじめとする重要な法、生活に身近な法を理解しておかないと、思わぬトラブルに巻き込まれたり被害を受けたりします。この授業では、日々起こっていることを題材に、皆さんが主権者として生きる手助けができればと考えています。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>私たちの生活を取りまく法や、それに基づいてつくられる制度を理解することが目標です。さらに、世の中で起こることに関心をもち、自分なりの見方や考え方を身に付けることができると考えています。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP (2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP (3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP (1)	70		30		100
ビジネスDP (2)					0
ビジネスDP (3)					0
ビジネスDP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 シラバスの説明、法の起源と歴史	プリントをもとに、法の成り立ちと移り変わりを学び、その必要性や現状について理解を深める。	15分
第2回 日本の法体系(六法)、日本国憲法(概説・重要条文・改憲論議)	プリントをもとに、日本の法体系や日本国憲法の重要事項について理解する。	15分
第3回 憲法(統治)、【特集】18歳選挙権	テキスト第8章を読んで、理解を深める。18歳選挙権を通して、主権者意識を高める。	20分
第4回 【特集】裁判員制度	裁判員制度について調べ、自分が選ばれた場合も含め、意義や問題点などを考える。	20分
第5回 憲法(人権)、【特集】ノーマライゼーション	テキスト第9章を読んで、理解を深める。人権をめぐる裁判事例についても把握する。	20分
第6回 民法(家族法)	テキスト第5章を読んで、理解を深める。関連事案を把握し、自分なりの見解をまとめる。	20分
第7回 民法(契約法・消費者法)	テキスト第2章・第3章を読んで、理解を深める。生活を通し、消費者の自覚を高める。	20分
第8回 トピックス①(時事問題について簡単に発表する)	取り上げてほしい時事問題があれば考えておく。取り上げた時事問題については理解を深める。	20分
第9回 民法(不法行為) 刑法(犯罪と刑罰)	テキスト第4章・第6章を読んで、理解を深める。生活を通し、順法意識・防犯意識を高める。	15分
第10回 刑法(性犯罪関係)	テキスト第7章を読んで、理解を深める。生活や事案を通し、防犯意識を高める。	15分
第11回 会社法	テキスト第10章を読んで、理解を深める。特に、起業や株式会社の仕組みについて理解する。	15分
第12回 労働法、【特集】就職の心構え	テキスト第11章を読んで、理解を深める。就職、労働についての意識も高める。	20分
第13回 国連と国際法	テキスト第12章を読んで、理解を深める。国連の仕組みや日本の果たす役割についても理解する。	15分
第14回 人権と国際法、【特集】国際的な人権問題	テキスト第13章を読んで、理解を深める。国際的な人権問題や日本が未批准の条約も把握する。	20分
第15回 トピックス②(時事問題について簡単に発表する)	取り上げてほしい時事問題があれば考えておく。取り上げた時事問題については理解を深める。	20分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、考えた内容を小レポートにまとめておくこと。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、70%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 レポート30%で評価する。		
課題に対するフィードバック		
授業内で提出したレポートは評価し返却する。定期試験の返却希望者には事務局を通して返却する。		
教科書・参考書		
『プレステップ 法学<第4版>』(弘文堂) その他、資料を配付し、参考書等は授業の中で示す。		